

2018年 平和首長会議 青少年「平和と交流」支援事業に参加して

川尻 彩香（岐阜県高山市）

今回のプログラムは、平和構築には欠かせない「核兵器廃絶」に関する知識を深めつつ、高山市の特性を生かした平和構築のあり方を模索する非常に有意義な機会でした。特に世界各国から集ったメンバーと過ごした時間は生涯の財産であり、講義やディスカッションを通して平和の意味を一緒に議論する場こそ平和への道であると感じました。プログラムを通して、より多角的・包括的に平和について考えるようになり、平和構築における異文化理解の重要性を実感することができました。

核兵器問題について理解を深める中で一番強く感じたことは、世界事情を積極的に学び、世界各地の紛争や自然災害等の被害に苦しんでいる人々の心に寄り添える能力を身に付けることの重要性でした。高山市は紛争や災害もない平和な場所だと認識していると、他国や他地域の紛争や自然災害は「よその事」として無関心になりがちです。ですが、対話を通して他者から積極的に学ぶことで、自らの紛争予防・防災対策になるだけでなく、寛容の精神と多文化共生の重要性が理解できると思います。それにより、真の国際人を育み「平和の文化」という思想の拡散に繋がります。年間46万人に及ぶ外国人観光客が訪れる高山市は、先駆的な国際理解教育の現場となりうると考えます。

そこで、下記のような取り組みを提案します。

国際理解教育の推進

世界の出来事に興味を持ち積極的に異文化を理解する「国際理解教育」を推進したいと思います。そのためには、外国人と地域住民が自由闊達に交流できる異文化交流の機会が必要であり、国際観光都市である高山市はそのような機会の創出に適しています。外国人観光客は高山での滞在を通して日本の古き良き文化や伝統を学び、地域住民は世界の文化や国際事情に触れることができます。私はガイドとして橋渡しの役割を担えればと思います。また、教育機関や地域コミュニティレベルで、世界の文化や国際社会事情、紛争の現場を知るワークショップや展示会、イベント等を企画したいと思います。

外国人定住者の受け入れ体制の充実

観光を通じた国際理解教育の促進を考えた場合、観光は大半が一過性のため安定して国際交流の機会の確保することが難しく、在住外国人を巻き込む必要があると思います。また、生産人口の減少に伴う地方の労働力不足を補う意味でも、外国人定住者は貴重な存在であると思います。その上で、地元住民と外国人定住者が開かれた心と文化能力でもって友好的な関係を築ける環境づくりを進めることが大切だと思います。そこで、外国人定住者が生活相談でき高山での生活の仕方を学べる機会を設けるとともに、地域住民向けに外国人定住者と友好的に共存するための多文化共生講座や交流イベントの開催もできると考えます。

平和について考える機会を創出

9月21日は高山市平和の日という認識を広めることで、平和について考えることを習慣化できると考えます。そこで、21日に参加型のイベントを開催し、

より多くの市民に平和の日の存在を知ってもらえたらと思います。例えば、平和に関するコンサートや映画観賞会、パネルディスカッション、異文化体験のプログラムの開催などを行うことができると思います。私個人としては、本プログラムを広めるために積極的にメディア等に情報を発信し、ワークショップファシリテーターの勉強を生かして、平和に関するワークショップや講義の提供を行いたいと思います。また、学校の修学旅行は広島・長崎での被爆被害を理解する平和学習の機会にできると良いと思います。